

## 4年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「ごみはどこへ」 ～身近な取組からごみの減量について考えよう～

2. 学校教育目標と社会科で目指す子どもの姿

(省略)

3. 単元目標

廃棄物を処理する事業について、ごみの処理の仕組みや再利用、人々の協力に着目して、見学・調査したり資料で調べたりしてまとめ、ごみの処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を関連付けて考え、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとしたり、学習したことを基にごみの減量などについて自分たちができることを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①処理の仕組みや再利用、人々の協力などについて、見学・調査したり資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。	①処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	②ごみなどの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域との良好な生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量など、自分たちができることを考えたり、選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちができることを考えようとしている。

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～ごみ処理に携わる様々な「人」に着目し、誇りや愛情を涵養する～

本単元は、廃棄物を処理する事業が衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることが理解目標です。日々の生活から出る大量のごみは、当たり前のように処理されていますが、そのおかげで自分たちの生活環境が守られていることを児童は理解していません。そこで、川崎市は全国でも率先してごみ処理や資源の有効利用に力を入れていること、それらに携わる人々はきれいに暮らせるまちを守るために工夫や努力、協力などを行っていることを理解できるようにしました。子どもたちが「ごみ処理に携わる人々によって自分たちの生活が守られている」と実感できるよう、その人々（ごみ収集員、ごみ処理センターや資源化処理施設の職員、廃棄物減量指導員など）との出会いを多く設けるようにしました。直接会うのが難しい場合は、取材や質疑応答をしてもらえるようにしました。また、ご本人の顔写真も撮らせていただくことでより児童にとって身近に感じられるようにしました。これらの取組は、キャリア在り方生き方教育における「わたしたちのまち川崎」の視点にあたりと考えました。

(2) 学習過程 ～視点を明確にした学習過程～

日々の生活から必ず出てくるごみに着目させ、「ごみとは何だろうか」という疑問から、当たり前すぎて気に

も留めていなかったごみの処理がどのように行われているのかについて疑問を出し合い、学習問題をつくりました。前単元「水はどこから」では、水が自分たちの手元に届くまでに様々な人が携わっていること、そこには多くの工夫や努力があることを理解してきました。その際に、「だれが」「どこで」「どのように」「工夫や努力」と視点を可視化していきました。本単元でも、それらの視点に注目しながら学習しました。

また、ごみの処理に携わる「人」の思いにも触れ、様々な人たちのおかげで自分たちのまちが守られていることを理解した上で、社会的な見方・考え方を働かせながら現代・未来社会の課題と向き合い、子ども達が「自分たちも協力しなくては」「自分たちには何ができるのか」という思いを抱き、地域社会の一員として自分たちも何かしなければという意識をもてるような学習過程を考えました。

### **(3) 学習活動 ～ごみ処理に携わる様々な「人」の営みから学ぶ～**

人との出会いを大切に、多くの出会いの機会（出前ごみスクールの収集員をはじめ、処理センターや資源化処理施設の職員、子どもたちの学区で活動を行う廃棄物減量指導員）を設けました。ごみ処理に携わる様々な人の取組、工夫や努力などの話を聞くことで、その人たちの思いや考えからより「自分の事」として捉えながら学ぶことができました。また、副読本も活用し、話を聞いた上でさらにごみ処理の理解を深める手立てとして活用しました。

様々な人との出会いを通して、「〇〇さんが△△をするために□□をする工夫を行っていた」と、子どもたちが具体的な内容で説明できるようになり、そこから「自分たちも協力しなくては」「自分たちには何ができるのか」という思いが自然と出てくるような子どもたちを育てていきたいと考えました。これらの学習活動は、キャリア在り方生き方教育の「みんな一緒に生きている」の視点にあたりと考えました。

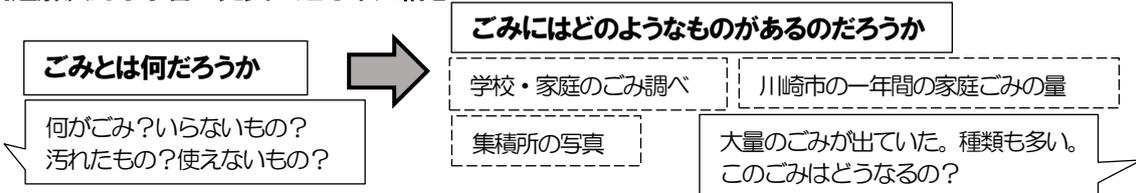
### **(4) 指導と評価 ～学習問題・まとめ・振り返り 3つのつながり～**

学習のまとめや振り返りを書く際には、必ずその時間の「学習問題は何だったのか」「今日学んだ中のキーワードはどれか」「まとめの書き始めはどのようにすればいいか」「今日の学習問題に対する振り返り」についてクラス全体で共有するようにしました。そうすることで、問題・まとめ・振り返りの3つの繋がりはずれが生じないようにし、子どもたちが書いたまとめや振り返りから、学習問題や授業中の声掛け、板書などが適切だったかを教師自身も振り返り、子どもの理解が不足している部分などがあつたら必ず補足するようになり、次時の授業に生かしたりするようにしました。

### **(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～様々な考えに触れ、自分の考えを深める社会科学習～**

意見交流や話し合いでは、少人数グループ→クラス単位の流れで行いました。これは、自分の考えに自信がなかったり大勢の前で話すことが苦手だったりする児童でも、自分の考えを少しでも表現できる場を設けたいと考えたからです。様々な考えに触れることで自分の考えと比較し、考えの変容や確信など自分の考えの深まりを感じてもらうため、本単元では、児童が「ごみの処理に携わる人々」「自分の考え」「友達の考え」の3つの立場の思いに触れるように進めました。①「ごみの処理に携わる人々の思い」を知り→②「自分の考え」をもつ→③「友達の考え」を自分の考えと比較しながら聞き、→④再度「自分の考え」を見直していく。様々な立場の思いに触れることにより、自分では気付かない考えに気付いたり、自分の考えに確信をもったりすることができ、ごみの処理に携わる人々に対する自分の考えがより深まると考えました。

6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想



単元を見通す学習問題

① ②収集されたごみは、だれが、どこで、どのようにして処理しているのだろうか。(思①)(態①)

工夫や努力 公衆衛生の向上	効率的な 収集の仕組み	③④家や学校から出たごみは、だれがどのように回収しているのだろうか。(知①)
	衛生的な 処理	⑤処理場では、集められた普通ごみをどのように処理しているのだろうか。(知①)
	資源の有効 利用	⑥集められた資源物は、どのように処理しているのだろうか。(知①)
	計画的な 改善	⑦昔はどのようにごみを回収したり処理をしたりしていたのだろうか。(知①)

単元を振り返る学習問題

⑧⑨収集されたごみは、だれが、どこで、どのようにして処理しているのだろうか。(思②)(知②)

ごみすて場に出されたごみは、ごみ処理にたずさわる人々によってわたしたちの生活や環境のことを考えながら燃やしたり、新しいものに生まれ変わらせたりしていた。川崎市だけではなく、まちの人々や様々な工場が協力しているからごみの量が減り、今でもまちがきれいに保たれている。しかし、次の処分場は未定

埋立処分場 2028年→2053年にのびた ← 今のままでは2053年に埋立処分場がいっぱいになってしまう！

⑩⑪地域やまちではどのような取り組みをしているのだろうか。(知①)(態①)

副読本「くらしとごみ」ごみの量と人口のうつつりかわり	廃棄物減量指導員(啓発)	ごみを減らすために、地域では廃棄物減量指導員さんの取り組みや資源回収などが行われていた。また、様々なお店も川崎市のごみの減少のために協力していた。わたしたちにも何かできることはないだろうか？
まちのお店の取り組み (Aストア、コンビニエンスストア)	地域の資源回収	

⑫⑬ごみを減らすためにわたしたちにできることはなんだろう。(思②)(態②)

2053年に埋立処分場がいっぱい。しかし、ごみを0にはできない。	副読本「くらしとごみ」 これまでの学習資料	コロナによる家庭ごみの増加 川崎市のごみ分別率・資源化率
----------------------------------	--------------------------	---------------------------------

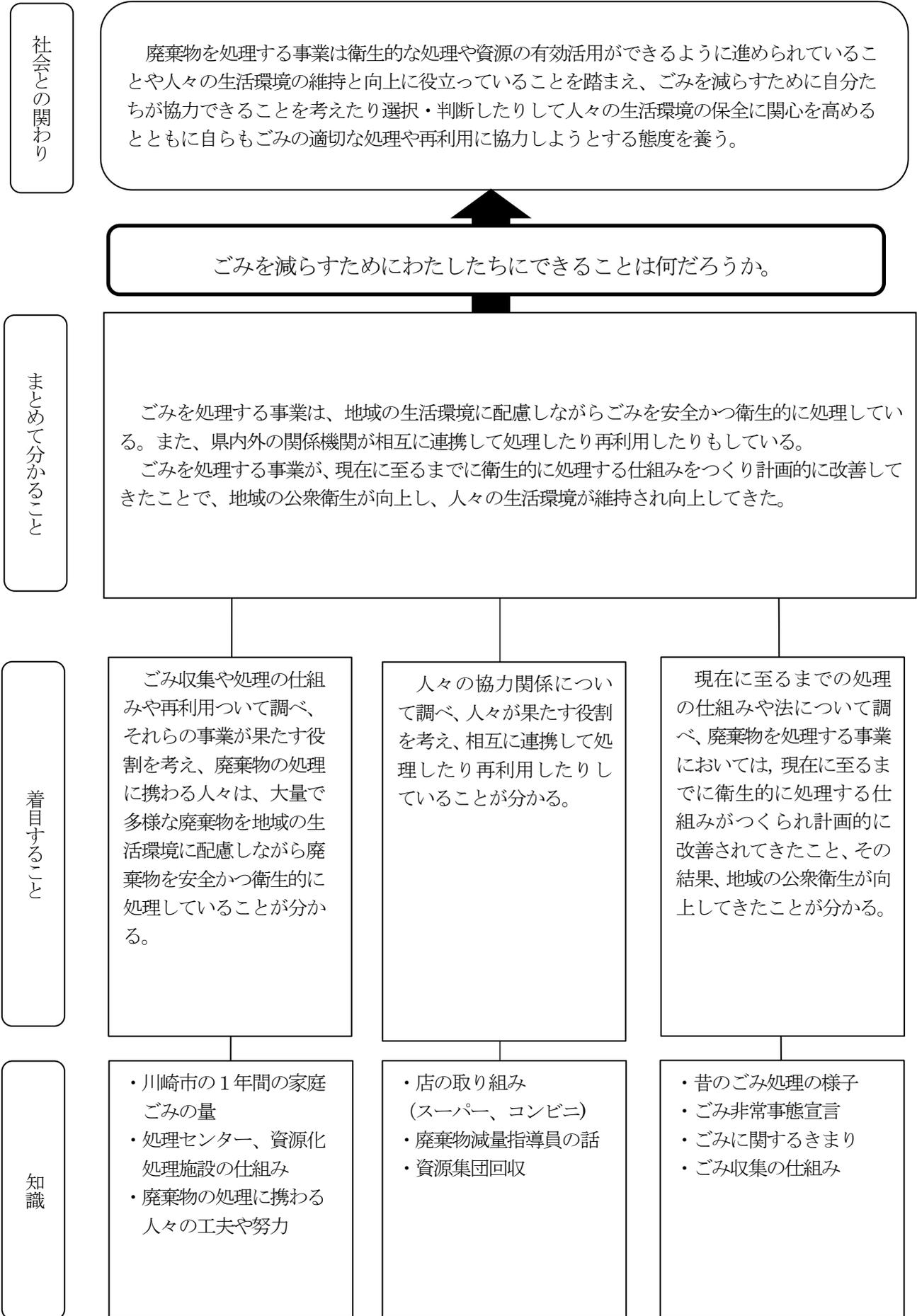
埋立処分場がいっぱいになってまちがごみであふれてしまわないように、00に取り組みで、わたしたちのまちを守っていきこう！学校全体でも協力してもらいたい。家族にも協力してもらおう。

7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（13時間）※  は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価基準】
① たくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	○ごみ調べを行い、たくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくる。	◇川崎市の1年間の家庭ごみの量 ◇集積所の写真	・発言やノートの記述から、「処理の仕組みや再利用などに着目し、問いを見出しているか」を評価する。  【思一①】
② 学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題の予想をもち、学習計画を立てる。		・発言やノートの記述から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。  【態一①】
③④収集員に聞き取り調査したり、資料で調べたりすることを通して、集積所のごみを収集する仕組みなどについて理解できるようにする。	○集積所のごみを収集する様子を見学・調査したり各種資料を活用したりして調べる。	◇収集員の方の話（出前ごみスクール） ◇ごみ収集車のルートマップ	・ワークシートやノートの記述や質問から、「必要な情報を集め、読み取り、集積所のごみを収集する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。  【知一①】
⑤ごみ処理センターで処理について資料で調べることを通して、環境に配慮した処理の仕組みや処理に携わる人々の工夫や努力を理解できるようにする。	○ごみ処理センターで燃えるごみを処理する様子について各種資料を活用して調べる。	◇ごみ処理センター見学用DVD ◇王禅寺ごみ処理センターの方の話 ◇灰の行き先（埋立処分場）	・発言やワークシートやノートの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、環境に配慮した処理の仕組みや処理に携わる人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。  【知一①】
⑥資源化処理施設について資料で調べることを通して、種類ごとに合った処理の仕方や処理の仕組みや処理に携わる人々の工夫や努力を理解できるようにする。	○資源化処理施設で資源物を処理する様子について各種資料を活用して調べる。	◇資源化処理施設見学用DVD ◇資源化処理施設の方の話 ◇資源物のゆくえ川崎市のごみ処理のながれ（「くらしとごみ」）	・発言やノートの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、種類ごとに合った処理の仕方や処理の仕組みや処理に携わる人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。  【知一①】
⑦川崎市のごみ処理問題に対する取組について調べることを通して、衛生的に処理をする仕組みやきまりなどをつくり、計画的に改善されてきたことを理解できるようにする。	○ごみ処理問題を計画的に解決している様子について各種資料を活用して調べる。（GIGA）	◇ごみ収集の写真（昔・今） ◇クリーンかわさき号 ◇ごみ処理のあゆみ（「くらしとごみ」）	・発言やノートへの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、衛生的に処理をする仕組みやきまりなどをつくり、計画的に改善されてきたことを理解しているか」を評価する。  【知一①】
⑧⑨調べたことを図などにまとめ、ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生	○学習問題について調べたことをもとに、ごみ処理の仕組みや経路、人々の協力関	◇ノート ◇副読本「くらしとごみ」	・発言やワークシートから、「ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関

<p>活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。</p>	<p>係などについて、図などにまとめながら、ごみ処理事業の果たす役割について考える。</p> <p>○まとめたことを基に、学習問題について話し合い、文にまとめる。</p>		<p>連付け、ごみの処理のための事業が果たす役割を表現しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【思一②】</b></p> <p>・ワークシートやノートの記述から、「調べたことを図などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【知一②】</b></p>
<p>⑩⑪地域の人々の取組を調べることを通して、ごみの減量に向けた取組や工夫や努力を理解できるようにする。と共に、さらに調べることを見いだすことができるようにする。</p>	<p>○地域の人々がごみの減量に向けて取り組んでいる様子について各種資料を活用して調べる。</p> <p>○ごみについての課題からさらに調べることを見い出す。</p>	<p>◇店の取組 (スーパー、コンビニ) ◇廃棄物減量指導員の話 ◇資源回収</p>	<p>・ノートの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、衛生的にごみの減量に向けた取組や工夫や努力を理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【知一①】</b></p> <p>・振り返りの記述から、「これまでの学習を振り返り、さらに調べることを見いだしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【態一①】</b></p>
<p>⑫⑬学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちができることは何か考えようとする態度を養う。</p>	<p>○ごみを減らすために自分たちができることを選択・判断し伝え合う。</p> <p>○ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。</p>	<p>◇これまで活用した資料 ◇ノート ◇コロナによる家庭ごみの増加 ◇川崎市ごみ資源化率</p>	<p>・発言やノートの記述から「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【思一②】</b></p> <p>・振り返りの記述から「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちができることを考えようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【態一②】</b></p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



社会とのかかわり

まとめて分かること

着目すること

知識

ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

#### ◆4年部会が目指す子ども像

社会の仕組みやつながりを理解し、地域社会の一員として自覚を高める子

(4年部会が大切にしている社会科学習)

- ・子どもが意欲的に学びながら社会の仕組みを理解する学習過程
- ・子どもの日常生活や人との関わりを大切に教材開発
- ・子どもが疑問をもち、考えたいような資料選択・提示
- ・子どもが自分から調べたり、取材したり、誰かに伝えたりするなど、自ら動き出す学習活動

(社会科教育研究会が大切にしていること)

- ・学ぶ意欲を高めつつ、学習のねらいを達成できる教材化
- ・地域にある素材を生かした教材化
- ・追究の意欲を喚起する教材化
- ・社会の動向に応じた教材化
- ・自らの在り方や生き方を考えることができる教材化
- ・各種副読本を活用しながら学習を進められる教材化

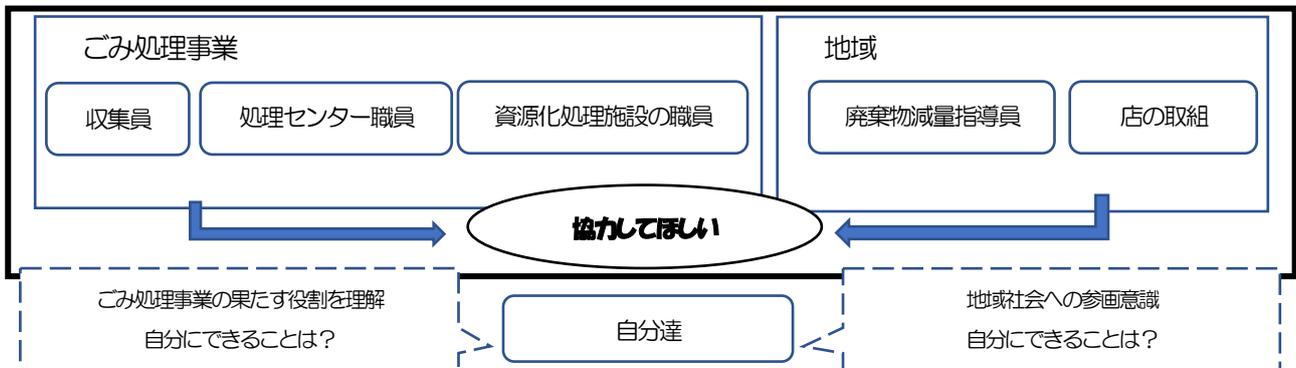
#### 研究の重点

##### ○教材化「日常生活や人との関わりを大切に教材化」

(1) ごみ処理に関わる人達の思いを大切に、自分にできることを考える。

ごみ処理事業に関わる人達は、地域の生活環境や市民の健康を守るために廃棄物処理事業に携わっています。このような人たちのおかげで自分達の生活が成り立っていることを理解し、ごみを減らすためにできることを考えることは、地域社会の一員としての自覚を高めるために大切です。

そこで本単元では、事業に関わる人や地域の人達の思いや努力など、人の働きを共感的に捉えながら学習を進めていくことで廃棄物処理の果たす役割を理解できるようにしました。また、廃棄物処理に関わる人、地域の人たちなどそれぞれの立場の人達の「協力してほしい」という思いの意味を考えることで、自分たちもごみ処理について真剣に向き合っていかなければならないということに気付けるようにしました。



(2) 川崎市のごみの現状が分かる資料から、自分たちにできることを再考する。

今回の実践では、ごみを減らすために自分にできることを交流した後に、川崎市のごみの分別状況が分かる資料を提示しました。その後、一人ひとりが本当に分別できているのかを確認する活動を取り入れ、十分に分別できていないことが気づけるようにしました。このような活動を通して、自分たちの現在の生活をもう一度見直す必要やごみ問題は今後も考え続けなければいけない問題であることに気付けるようにしました。よりよい社会を考え学習した事を社会生活に生かそうとする態度や、地域社会の一員として協力していこうとする態度を養うことにつながったと考えています。

##### 学習過程「子どもの思考の流れを大切に学習過程」

地域の一員として何ができるかを考えられるよう、子どもの思考の流れを大切に学習過程にしました。単元の前半では、ごみ処理事業について学習計画を立て、調べる視点を明確にすることで廃棄物を処理する事業の役割を理解できるようにしました。単元後半では、学習計画を見直す時間を入れ、地域へ目が向くようにしました。ごみ処理事業には様々な立場の人達が協力して関わっていることを知ることで、協力していくことの必要性を実感するのではないかと考えています。また選択・判断の時間では、ごみ処理事業と地域の取組の理解を踏まえた上で、自分にできることを考えられるようにしました。